

I 令和元年度事業運営の特徴と課題

1 各介護保険事業の状況

(1) 特別養護老人ホームの利用状況（稼働率）

（％）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年平均稼働率 (月平均人数)
介護老人福祉施設 定員 80 名	96.0	94.9	93.5	92.7	97.3	97.4	96.2	96.7	94.9	94.0	97.1	96.9	95.6 (2322.8 人)
短期入所生活介護 定員 20 名	107.0	115.7	104.7	107.7	115.5	109.2	107.3	110.3	115.7	113.4	110.5	104.2	110.1 (731.3 人)
特養 計 定員 100 名	98.2	99.1	95.7	95.7	100.9	99.8	98.4	99.4	99.0	97.9	99.8	98.3	98.5 (3004.3 人)

*今年度は退所が 29 件と例年より多く、また入院件数が多かったため、稼働率は 98.5%と昨年度に比べ 1.0 ポイントの低下となりました。

(2) 在宅サービスセンターの利用状況（稼働率）

（％）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年平均稼働率 (月平均人数)
通常型通所介護 定員 30 名	89.6	92.6	98.3	95.8	93.8	93.6	91.7	95.6	89.3	81.9	84.8	80.5	90.7 (707.4 人)
認知症型通所介護 定員 10 名	48.5	49.6	47.6	46.3	42.6	45.2	42.2	40.8	34.1	39.2	42.8	38.5	43.1 (112 人)
通所 計 定員 40 名	79.3	81.9	85.6	83.4	81.0	81.5	79.4	81.9	75.5	71.3	74.3	70.0	78.8 (819.5 人)

*通常型通所介護：年明けより新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けましたが、前年より 5.9 ポイント増の 90.7%となりました。

認知症型通所介護：利用者の特養入所等により、前年より 32.4 ポイント減の 43.1%

通所合計：利用者の特養入所等により、前年より 3.7 ポイント減の 78.8%

(2) 介護老人福祉施設事業の状況

港区の指定管理者として 28 年度から 5 年間の指定を受け、その 4 年目の管理運営を適切に行いました。

サービスの提供はご利用者の個性や価値観を尊重し、個々の能力に応じた生活が営めることを目標にしました。そのために、安全で快適な施設生活を送れるよう、ご利用者一人ひとりの状態に合わせたサービスの提供に努めました。看護師の夜間配置により胃ろう等の医療を必要とする要介護者を多く受け入れました。重度の認知症により特別な見守りが必要なご利用者

が落ち着いて過ごせるよう、専用スペースを設け専属の職員がケアを行いました。また、嘱託医との連携により16件の看取り介護を実施しました。

生活の質の向上の観点から、ご利用者が楽しめる多彩な活動の実施に取り組みました。地域性を生かした外出や季節を感じるイベント、食を楽しむ多様な取組み、複合施設の特徴を生かし、併設する子ども中高生プラザと毎月の交流会等を実施しました。

地域との連携については、地域の小中学校や幼稚園をはじめ、町会、商店会、警察、消防、関係団体など、幅広いメンバーで構成する「地域懇談会」を開催しました。納涼祭など時季に応じた行事も地域の協力を得て実施しています。また、選任のボランティア・コーディネーターを配属することにより多彩なボランティア活動を調整し、効果的な地域との交流やご利用者の余暇活動の充実、日常生活の活性化を図ることができました。

(3) 短期入所生活介護事業の状況

ご利用者の心身の機能の維持並びにご家族の身体的及び精神的な負担の軽減が図れるよう、毎日のレクリエーション活動や医療面での充実を図り、できる限りご希望に応じたサービスの提供に努めました。

また、介護老人福祉施設との併設であることから、施設ご利用者の入院や退所による空床をキャンセル待ちのご利用者に提供しショートステイの稼働率は110.1%となり、施設を有効活用することができました。特養の稼働率が低下する中、施設全体の稼働率低下を最小限にすることができました。

(4) 通所介護事業・認知症対応型通所介護事業の状況

ご利用者の心身の安定、機能の維持そして、ご家族の身体的及び精神的な負担の軽減が図れるよう努めました。サービスの提供に当っては、ご家族及び居宅介護支援事業所との連携により、在宅生活の継続性を重視し、ご利用者の希望に応じて選択できるよう、多彩な趣味、活動のプログラムを準備し提供しました。

また、ニーズに応え、昨年度に引き続き年末の運営を試行的に実施しました。1月以降入院や施設入所の方が増えたこと、2月以降新型コロナウイルスの影響により利用を控える方が増えたことなどにより、年間稼働率は78.8%と前年度を3.7ポイント下回りました。

要支援状態のご利用者について、できる限り要介護状態にならずに、住み慣れた地域でその有する能力を活かし自立した生活を送ることができるよう、介護予防サービスを提供しました。

(5) 認知症介護への取り組み

東京都が開催する認知症の専門研修を受講した職員が中心メンバーとなる「認知症介護プロジェクト委員会」が中心となり積極的な活動を行いました。認知症状があるため、「～したい」「～してほしい」という自身の思いを言葉で上手く表現できない利用者の真の思いを明確に汲み取り、寄り添える職員育成を目指しています。方策を委員会で検討し、職員全員を対象とする勉強会を開催しました。利用者の真の思いを引き出すためのアセスメントのあり方を委員会にて引き続き検討していきます。

2 港区からの受託業務等の状況

(1) 港区立特別養護老人ホームサン・サン赤坂の管理運営に関わる業務

港区の指定管理者として、港区立特別養護老人ホームサン・サン赤坂の管理運営に関わる看護に関する業務、介護に関する業務、その他複合施設であることによる建物管理等の業務を行いました。

(2) 港区立高齢者在宅サービスセンターサン・サン赤坂の管理運営に関わる業務

港区の指定管理者として、港区立高齢者在宅サービスセンターサン・サン赤坂の管理運営に関わる入浴に関する業務、送迎に関する業務、その他調理委託等の業務を行いました。

(3) 港区高齢者集合住宅の生活協力員業務

港区から委託を受け、港区立はなみずき白金等4か所の港区高齢者集合住宅の生活協力員業務を行いました。